



コレクター 機関説 やくみつる

「コレクターの中には総称して「紙モノ」と呼ばれる連中がいる。ひと括りに「紙モノ専」といってもその守備範囲は多岐多様だが、「この場合、紙本着色の絵画や書籍など。歴とした紙の蒐集は含まれない」といってだが蒐集家は「蒐」の字を好んで用いる。「蒐」が入っているところに、蒐集にかける気合いが感じられるからではないかな。多くは紙クズとして見られがちなものの類である。

代表的な紙モノには焼寸箱のラベルとか、チューインガムの鞆紙、今やめつくり数の減った駅弁の上紙なんてところがあるが、中でもトレットペーパーの包

装紙が「専攻」といってころか。質・量ともにおそらく日本でも五指には入ると自負している。といっても、同好の士を6、7人しか知らないのでは（それでもそれほど存在する！）。その中でのお話ではあるが。なにしろ私はパソコン、インターネットを全くやらず、ネットで同好の士とやりとりなんてこともないから、それ以上は確かめようがない。紙モノ専たるもの、ネットになんか「警もくられてやらないのだ」。

で、話が前後してしまっただが、ナニエ、トレットペーパーの包装紙であるかという、あの実用一辺倒のトイペに付けられたさまざまな名称のおかしみ、またそのデザインの多様さが蒐集に値する。とても言えば大義が成立する。たとえば動物だけをとってもポチにライカ犬、兎、牛、馬、ひいては象だ、ラッタだと、まあ考えられる大概の動物はトイペの包装紙に登場する。長く猫が発見されなかつたのだが、先日それも遂に見つかった。言っておくがトイペの包装紙である。別に「トレットペーパー」と無印良品っぽく売っててもよいと思うのに、そこで無駄に凝ることに似ている美学がありはしないか。実際これらのトイペが個室内に予備用として置かれる際、包装紙は剥がされることが多い。となる



やくみつる。1959年東京都生まれ。早稲田大学商学部卒業。漫画家として活躍する傍ら、トレットペーパーの包装紙、有名なワパコの吸殻などのコレクターとしても知られる。現在、日刊スポーツ、朝日新聞、マンスリーよしと、まんがタイムオリジナル、オール讀物などに多数の連載を持つ。

と、真にいつたい何のための個別包装かという疑問も生じてくるのだ。なにがあるトイペは「日本」ときつけれ、富士山と桜花が包装紙にあしらわれる。またあるトイペは「心のときめき」とネーミングされ、ミニスカの乙女とくまの花とハートウエンの楽韻が描かれる。

この無駄な凝りようを後世に伝えるのも、紙モノ専の担う一大使命と心得るのだ。これがいわゆるコレクター「機関説」。コレクターは散逸の懸念される資料を収蔵、研究する私的博物館としての役目を担うとする考え方である。これはけっして蒐集家の自己弁護ではあるまい。私らが蒐めねば、誰がトレットペーパーの包装紙なんぞを後生大事にフリーリングしたりするものか。しかも我が家ではトイペに一部屋あてがっているのだ。それと最後に。以下のトイペをお持ちの方、私の連載先等に「一報を。『十和田』『エレスト』『天龍』『アパッチ』『オリオン』『ペンギン』（絵入りのもの。『スターペンギン』は入済み）

地球温暖化を防ぐ私たちの小さな一歩

Let's think together!

省資源、輸送の合理化に、紙のダイエットが役立っています。

2割近いダイエットに成功しているのが新聞用紙。毎日手にしているの、その変化に気づきにくいかもしれませんが、1970年代までは1平方メートルあたり52グラムが標準でしたが、現在では、43グラムものが主流となっています。欧米では、47グラムが平均的ですので、世界的に見ても、最も軽量化が進んでいることとなります。紙の軽量化は資源の節約になり、輸送の合理化にもつながります。しかし、軽量化した場合、紙を抄くマシンの大型化、高速化が必要となり、結果的には、エネルギーを多く消費することになります。この増エネ分に、私たち製紙産業では、省エネ型設備の導入、エネルギーの効率的な利用といった、さまざまな工夫で対処。全体的に見て、紙を1トン生産するために必要なエネルギーは、着実に減少しています。

(注)*紙1トンつくるのに必要な総エネルギー量は、1981年度を100%とした場合、約67%まで削減(2003年度)。資料:経済産業省